

群馬県立女子大学生の

広瀬川アートV

—未来をつなぐ GUNMA のデザイン—

2026.3.7 SAT → 29 SUN

広瀬川河畔（久留万橋～諏訪橋）群馬県前橋市千代田町5丁目



本チラシ（表面）に掲載しているイラストは、生成AIを活用して制作しています。

広瀬川アートV

〔主催〕公益財団法人前橋市まちづくり公社 〔後援〕前橋市、群馬県立女子大学

〔協力〕株式会社織絵、palanAR、有限会社山崎製作所、アーツ前橋ミュージアムショップ amenbo NPO 法人あめんぼ、株式会社 CATENAS、株式会社 Art Marketing Japan、下山肇、アイエス資材株式会社、GreenSnap 株式会社

〔内容〕学生・教員の作品、スマホスタンプラリー、太陽の鐘を鳴らそう！、パノラマツアー 〔出展者〕群馬県立女子大学デザインゼミ学生7名、絵画ゼミ学生1名、教員1名

群馬県立女子大学生の

広瀬川アートV

2026.3.7 SAT → 29 SUN

広瀬川河畔（久留万橋～諏訪橋） 群馬県前橋市千代田町5丁目

—未来をつなぐ GUNMA のデザイン—

前橋の中心市街地を流れる広瀬川を舞台に、群馬県立女子大学 文学部 美学美術史学科でデザイン・アートを学ぶ学生と教員が、「GUNMA」をテーマに屋外作品展示を行います。本展のキーワードは「つなぐ」。大型立体作品や幕作品、ARなど多彩な表現を通して、学生と県民、作品と鑑賞者、風景と表現など、さまざまな関係に目を向け、群馬の過去・現在・未来をつなぎます。会場には岡本太郎《太陽の鐘》が行み、鐘を打ち鳴らす特別イベントを開催。また、アーツ前橋あめんぼ及び、GITYとの連携による学生グッズの販売や、会場を巡るスタンプラリーも行い、達成者にはオリジナルエコバッグをプレゼントします。広瀬川アートを介し、人とまちを「つなぐ」きっかけとなれば幸いです。





**スマホ
スタンプラリー**
オリジナルグッズ
プレゼント!

出展作品 11 箇所に設置
されている二次元コード
をモバイル端末で読み込
んでスタンプを集めよう!
全てのスタンプを集める
と学生デザインの
エコバッグを
ゲットできます!

交換期間 3月9日(月)～30日(月) (9:30～18:15)
※プレゼントは、なくなり次第終了
交換場所 前橋市まちづくり公社
※交換は平日のみ



**岡本太郎
太陽の鐘
を鳴らそう!**
3月15日(日)
13:00～開催

広瀬川アートVの開催を
記念し、展示会場内にある
岡本太郎作品、「太陽
の鐘」の鐘打ちを開催!
どなたでもご参加いただけ
ます。未来への願いを
込め「太陽の鐘」の響き
を空へ届けませんか。

場所 広瀬川 太陽の鐘
日時 2026年3月15日(日)
13:00～14:00 (予定)
※天候により中止の場合あり



**パノラマ
TOUR**
3月8日(日)～
公開!

広瀬川アートVの作品群
をどこからでも鑑賞する
ことができるパノラマツ
アーを公開します。
二次元コードで来場可能。
本展覧会終了後
もアーカイブとし
てご覧いただけます。

公開期間 3月8日(日)～12月31日(木)
協力 株式会社 織絵
株式会社 Art Marketing Japan



松井 玲奈 《ひかりに映る春》(平面)

広瀬川の風景をモチーフにしたステンドグラス風の平面作品です。屋外展示を想定し、太陽光を受けて反射することで通行人の目に留まる表現を目指しています。桜が満開の写真をとに、まだ咲いていない川の景色と重ね合わせ、春を待つ時間や季節の移ろいを感じてもらえたらと考えています。



松田 怜奈 《風を駆ける》(立体)

素材に垂木を用い「馬」をモチーフとした作品を制作します。群馬に強く感じる「からっ風」の印象を引き継ぎ、走る馬をその化身として表現します。今年が午年である点や県名との親和性も意識し、前作を踏まえながら、新たな表現の可能性を探ります。立体としての存在感も重視します。



永井 琴菜 《つなぐ繭 一群馬の時間》(立体)

過去の群馬に着目し、コードやケーブルで蚕の繭を表現することで、養蚕業が人や物、経済をつないできた歴史を可視化する作品です。かつて生糸が社会を支えたように、現代では情報や電気が社会を結んでいる点に重ね合わせ、過去と現在が断絶せず連なっている群馬の時間と記憶を感じてもらうことを目指しています。



飯塚 葵 《風をまとう広瀬川1,2》(インスタレーション)

本作品は、広瀬川をイメージした布をデザインし、風になびかせることで、川周辺の自然環境を視覚化したものです。布の色や模様で川の流れや柳の木を表し、群馬特有の強い風を利用して、揺れる葉や木々の様子を再現しました。本作を通して、広瀬川の美しさや自然の動きを感じるひとときとなればと願っています。



中澤 樹香 《前橋のかみさま、まえをはしる》(立体)

広瀬川の流れる前橋市は、自然と文化、人が交わる心豊かな街です。本作では「まえばし」を軸に、「からっ風」「古墳」「上州豚・鶏」「自転車」などの要素を掛け合わせ、街を先導するつくも神の姿を想像しました。彼らが駆け抜ける風を通して、群馬のあたたかな心性を感じてもらえたらと考えています。



大沢 真結 《Flower Fairies ~ MAEBASHI ~》(半立体)

前橋市には、環境省や群馬県が選定した「重要種」と呼ばれる、絶滅のおそれのある植物が存在します。本作では、マツミ・クリンソウ・キンラン・ギンランの4種を、親しみやすい妖精の姿で表現しました。重要種が多く生息する前橋市の自然環境に目を向け、環境保護への関心を深めていただければと思います。



西野 遥香 《上毛学園物語》(半立体)

本作品では、上毛三山（赤城山・榛名山・妙義山）を擬人化し、学園青春ゲーム風のキャラクターとして表現しました。各山の形状や季節の花、観光スポット、伝説、上毛かるたの言葉を手がかりにデザインしています。赤城さん、榛名さん、妙義さんが過ごす学園生活を想像しながらご鑑賞ください。



赤堀 未矩 《広瀬川舟往来図》(平面)

現在、前橋市街地を流れる広瀬川は、江戸時代前期には江戸へ物資を運ぶ舟運にも利用されていました。本作では、船が行き交っていた当時の広瀬川の風景を想像し、浮世絵風に表現しています。現在の広瀬川と見比べながら、時代の移り変わりや往時の景色に思いを馳せていただければと思います。



高橋 綾 《群をなす馬》(立体)

上毛三山（榛名・妙義・赤城）は、信仰の対象とされてきました。本作では三山を象徴する白く榛名、黒く妙義、銀く赤城の三体を、群をなす馬の姿へと変じて大地を歩む姿を県民の営みに重ねます。三体の馬が集うことで「群馬」という名に重ね、広瀬川の流れと呼応し、土地の記憶と自然と人との関係を考える契機とします。



高橋 綾 《AR ロボットピア》(AR)

一年前、群馬の三山を象徴する存在は、ロボット三体として広瀬川河畔に姿を現しました。今回、その力を受け継ぎ、三つの存在が融合した金色のARとして、広瀬川河畔に再び現れます。スマートフォンで二次元コードを読み取り、実体を持たない光の存在を体感することで、広瀬川に息づく自然の発見につながります。

